

新報児童オリンピック少年サッカー-NEXT大会

【大会要項(案)】

- 1 趣旨 沖縄県で学ぶ児童の健やかな成長を願い、各種スポーツ活動を通じて、児童の健全なる心身発達とスポーツの普及発展に寄与するものとする。また、大会を通しサッカー競技の底辺の拡充を図るものとする。
- 2 名称 新報児童オリンピック少年サッカー-NEXT大会
- 3 主催 (一社) 沖縄県サッカー協会
- 4 主管 (一社) 沖縄県サッカー協会 4 種委員会
- 5 後援 -
-
- 6 特別協賛 -
- 7 協賛 -
- 8 協力 -
- 9 大会期日 各地区大会 2025年 8月31日 (日) 迄に各地区代表チーム選出できるよう、各地区にて開催NEXT大会
【参加申込期限】 各地区大会開始日の7日前 17:00 (KICKOFF選手・役員登録完了期限)
【開催日】 2025年 10月18日 (土)、19日 (日) 具志川多種目球技場
【予備日】 なし
【代表者会議】 2025年 10月1日 (水) ZoomによるWeb会議
【開会式】 なし
【閉会式】 行わない
- 10 大会会場 具志川多種目球技場
- 11 参加資格 ① 大会実施年度に(公財)日本サッカー協会(以下JFAとする。)[「第4種」]の種別で加盟登録を行ったチーム(以下、加盟チームとする)であること。選手は小学4年生以下であること。
② 選手は2025年度スポーツ安全保険に加入していること。
③ 同一加盟チームで複数チームの参加を認める。
④ ①に該当するチームでの合同チームでの参加を認める。ただし、合同チームでの複数チームでの参加は認めない。
⑤ 第45回新報児童オリンピック少年サッカー大会県大会に不参加のチームであること。
- 12 参加チーム 参加チームは、以下により選出された72チームで行う。
① 各地区代表72チーム(新報児童OP地区大会参加チームで県大会不参加チーム。希望制)
- 13 大会形式 各チーム大会2日間のうち1日のみ参加となる。各出場チームごとに2試合を実施し、順位は決定しない。
- 14 組合せ ① 組合わせは4種委員会により抽選を行い決定される。
- 15 競技規則 大会実施前年度のJFA「サッカー競技規則」およびJFA「8人制サッカー競技規則」による。
但し、細則については、4種用として競技会規定を定める。決定は4種委員会の内容による。
- 16 競技会規定 以下の項目については、本大会の規定を定める。
① 競技のフィールド
フィールドサイズ: 固定しない(縦60~68m、横40~50m程度)
※但し、フィールドサイズは、68m×50mの大きさを推奨する。
ペナルティエリア: ゴールライン上、ゴールポスト内側よりタッチライン方向へ12m、その地点からゴールラインに直角12m
ゴールエリア: ゴールライン上、ゴールポスト内側よりタッチライン方向へ4m、その地点からゴールラインに直角4m

センターサークルの半径： 7m

ペナルティアークの半径： 7m

ペナルティマーク： 8m

ゴールの大きさ： ゴールの内り 縦2.15m×横5m（少年用）（丸型、角型、簡易用ゴールも可とする。）

② ボール

アディダス（株）社製の（コネクト25 プロ キッズ 4号球：ADF400）とする。空気圧は0.8気圧とする。

③ 競技者の数

競技者の数：8名（6名に満たない場合は試合を行わず、得点を0対5として敗戦したものとみなす。

試合中、怪我等により、6名に満たなくなった場合は、その時点で試合を終了し、同様の敗戦とみなす。）

交代要員の数：12名以内

交代を行うことができる数：制限なし（交代して退いた競技者は交代要員となり、再び出場することができる。）

④ ベンチ入りするチーム役員の数：2名以上3名以下（これに反した場合には、チーム役員に対し、大会規律委員会により懲罰を科す。）なお、1名以上がJFA公認指導者ライセンス（D級コーチライセンス以上）を有することが望ましい。ベンチには、選手・役員以外はいれない。

⑤ 審判員

（1） 審判は1人制を採用する。補助審判員を1名をおく。

（2） 審判は帯同審判制を採用し、参加チームにおいては大会運営の協力を義務付ける。

（3） 審判は各チーム1名とする。

有資格であれば、資格（3級・4級）は問わないが、4級審判は主審・副審ともに一定の経験を有する者とする。

（4） 審判は審判着を着用する。

（5） 宮古・八重山地区においては、審判の帯同を免除する。（大会本部にて割当を行う。）

⑥ テクニカルエリア

設置する。

⑦ 競技者の用具・ユニフォーム

（1） 本大会に登録した正・副2組のユニフォーム（シャツ、ショーツ及びソックス）を試合会場に持参し、いずれかを着用しなければならない。

（ただし、ゴールキーパーのピブス着用を認める。ユニフォームは選手固有の登録番号とし、ピブスの番号は問わない。）

（2） 正・副の2色については明確に異なる色とする。（通常、審判が着用する黒色、紺色などは認められない）

（3） ユニフォームのデザイン、ロゴ等が異なっても、本大会主催者が認める場合、主たる色が同色系であれば着用することができる。

（4） 選手番号は選手固有の登録番号をシャツの前面及び背面に付し、判別の明確な色彩及びサイズであること。また、台地に貼付けた番号についてはシャツにしっかりと縫いつけ、はがれないようにすること。台地の色は、ユニフォーム（シャツ）の色、もしくは白色のいずれかを認める。

（5） 広告の入ったユニフォームの着用は認めない。しかし、所定の手続きを完了した物についてはその限りでない。又、各国代表レプリカユニホームを着用する場合も代表エンブレム（マーク）が入ってる場合も同じである。

（6） ゴールキーパーのユニフォームについて、ショーツ、ソックスはフィールドプレーヤーと同色系でも良いものとする。（ただし、本項（1）によりゴールキーパーユニフォームとして登録されていること。）（本大会規定として、ゴールキーパーのピブスでの参加を認める。）

（7） 主審は、対戦するチームのユニフォームの色彩が類似しており判別しがたいと判断したときは、両チームの立ち会いのもとに、その試合において着用するユニフォームを決定する。

（8） 前項の場合、主審は、両チームの各2組のユニフォームのうちから、シャツ、ショーツ及びソックスのそれぞれについて、判別しやすい組み合わせを決定することができる。

- (9) ソックスにテープまたはその他の材質のものを貼り付ける、または外部に着用する場合、ソックスと同色でなくても良い。
- (10) アンダーシャツの色は問わない。ただし原則としてチーム内で同色のものを着用する。
- (11) アンダーショーツおよびタイツの色は問わない。ただし原則としてチーム内で同色のものを着用する。
- (12) 試合後にペナルティーマークからのキックにより勝者を決定する場合のユニフォームは以下の通りとする。
 - 《試合中のフィールドプレーヤーがゴールキーパーを行う場合》
 - ゴールキーパーとなる選手は、選手固有の番号を付けた、サブユニフォーム（試合で使用していないユニフォーム）の上着のみ着用して出場することができる。選手固有の番号を付けたゴールキーパーユニフォームを着用する場合においても、上着のみ着用して出場することができる。（本大会規定として、ゴールキーパーのビブスでの参加を認める。）
 - 《試合中のゴールキーパーがフィールドプレーヤーを行う場合》
 - ゴールキーパーユニフォームのまま出場することができる。（フィールドプレーヤーユニフォームを着用する必要はない）
- (13) 前半・後半試合開始時、シャツはショーツの中にを入れることを指導すること。
- (14) ベンチ入りしている交代要員は、フィールドでプレーしている色彩と異なるビブスやジャージ等を着用すること。
- (15) ユニフォームへの広告表示については、JFAの規定に基づくものでなければならず、選手・役員登録時までにJFAの承認を受けている場合のみ認められる。（承認結果は、承認後、4種委員会へ提示すること。）
- (16) ソックスについて、セパレート履きの場合はショートソックスはカーフソックスと同系色とする。
- (17) ゴールキーパーのビブスについて、企業名等、広告表示となる表記があるものは認められない。
ただし、メーカーロゴ等、通常ユニフォームにおいても許容されるワンポイントマークは認められる。
ゴールキーパーのビブス使用を予定しているチームは、色彩が他のプレーヤーと重複しないよう、複数色の準備を行うこと。
ベンチで交代選手が着用するビブスに関しては、広告表示の有無を問わない。

⑧ 試合時間

- (1) 試合時間は30分（前半各15分）とする。
ハーフタイムのインターバル（前半終了から後半開始まで）は原則5分間とする。
- (2) 規定の試合時間内に勝敗が決しない場合
ペナルティキック方式により勝者を決定する。

⑨ 交代の手続き

- (1) 交代して退く競技者は、交代ゾーンからフィールドの外に出る。ただし、交代して退くゴールキーパーは、境界線の最も近い地点からフィールドの外に出なければならない。
ただし、交代で退く競技者が負傷している場合は、主審の承認を得た上で、どこからフィールドを離れてもよい。
- (2) 交代要員は、交代ゾーンからフィールドに入り、競技者となる。
- (3) 交代は、ボールがインプレー中、アウトオブプレー中にかかわらず行うことができる。
- (4) フィールドプレーヤーの交代は、審判員に承認を得る必要はない。
- (5) ゴールキーパーは、事前に主審に通知した上で、アウトオブプレー中に交代することができる。

⑩ 負傷者の対応

主審が認めた場合のみ、役員のうち、最大2名がフィールドへの入場を許可される。

⑪ マッチコーディネーションミーティング

実施しない

⑫ グリーンカード

グリーンカードを推奨する。

⑬ セレモニー

実施しない

⑭ アディショナルタイムの表示

実施しない

⑮ 飲水

飲水タイムの有無を事前（前・後半開始前）に両チームへ審判より通告する。

17 懲罰規定

① 本大会はJFA「懲罰規定」に則り、大会規律・フェアプレー委員会を設ける。

② 大会規律・フェアプレー委員会の委員長は、4種委員会委員長とし、

委員は、4種委員会副委員長・審判部長、本大会運営責任者、会場運営主任とする。

③ 次の選手・役員の処置については、大会規律・フェアプレー委員会にて裁定する。

・同一試合で警告を2度受けた選手及び退場処分を受けた選手・役員。

・本大会累積警告が2枚の選手・役員。

④ レッドカードでの退場選手・役員に関して、次試合以降の処置については、大会規律・フェアプレー委員会にて裁定する。

選手が退場を命じられた場合は、その選手のチームは交代要員の中から競技者を補充することができる。

主審は競技者が補充されようとしている間は、試合を停止する。

⑤ レッドカードでの退場選手は、退場の対象となった試合については、コート本部で待機する。

⑥ JFA諸規定および本記載事項にない事例に関しては、大会規律・フェアプレー委員会にて裁定する。

18 大会参加申込

① 新報児童オリンピック大会に準ずる。

19 参加料

沖縄県大会 3,000円

各地区における参加チームが確定後、速やかに、協会指定振込用紙にて、地区で一括して振り込むこと。

20 表彰

行わない

21 ベンチ

① ベンチ入りする役員は、試合に参加するすべての関係者（審判、選手、運営スタッフなど）にリスペクトを持つことを義務付ける。指導者の言動により、関係者、観客が不快な感情を持つことのないよう、良識のある言動を義務づける。

② 自チームの選手であっても、1人の人格を持った人間であることを強く意識し、指導を行うこと。

上記が順守されていないと、審判、運営スタッフが判断した行為については、試合中に限らず、該当役員へ警告を行う。

また、その内容によっては、ベンチからの退席指示、フェアプレー委員会による懲罰検討の対象とする。

③ ベンチ入り役員が審判の判定に対して異議を唱えたり、選手に対して罵声を浴びせる等のネガティブなコーチングを行い、主審から一度注意を受けた後に再度同様な行為があった場合は、主審の判断により退場処分とし、それ以降はベンチからのコーチングを不可とする。

④ ウェルフェアオフィサー：サッカーを楽しむ大前提である安心・安全を守る担当者（＝ウェルフェアオフィサー）を配置する。サッカーにおける暴力根絶を目指し、ベンチ入り役員と試合の講評の伝達、意見交換等を行う。

22 その他

① 荒天時（強風、大雨、雷雨等）により試合続行が不可能と判断された際は、試合を停止し、天候が回復次第、残り時間を再開する。詳細は、項目⑨、⑩に規定する。

（試合開始前は大会本部にて、開始後は主審の判断にて決定する。）

② ケガについては各チームにて応急処置を行う。

③ 大会中におけるケガや賠償金が発生する損害については、当事者で解決すること。

④ 使用する施設・設備を大切にし、マナーを厳守すること。

- ⑤ 貴重品の管理・ゴミの持ち帰りは、各チームの責任で行うこと。
- ⑥ 飲水タイムについては、大会当日の天候により主審の判断にて行う。
- ⑦ 試合会場では他競技も実施されるため、駐車場が非常に混み合うが、一般道での路上駐車、一時駐車は厳禁とする。
また、マイクロバス等の大型車両で来場するチームは各々で駐車場を確保すること。
選手・役員の車からの乗降、荷物の上げ下ろしなどは、駐車場内で行うよう徹底すること。
- ⑧ 大会参加チームは、大会期間中、4種委員会により撮影された動画・画像は4種委員会の広報活動において使用されることを許諾したものと見なす。
- ⑨ 落雷に関して、試合開始・試合実施が困難な場合の取り決めは、下記の通りとする。
- (1) 試合開始前
- (a) 試合開始時において、雷の発生（予報）により、試合成立が困難と判断した場合には、試合を開始せずに、60分間天候状況を確認する。
- (b) 60分間天候状況を確認して、なお、状況が変わらない場合においては、大会本部（会場責任者）が中止を決定する。
- (c) どうしても当日中に勝敗を決定しなければいけない場合には、大会本部にて抽選で勝敗を決定する。
- (2) 試合中
- (a) 審判が雷の発生により、試合続行が困難と判断した場合には、試合を停止する。
- (b) 大会本部（会場責任者）が雷の発生により、試合続行が困難と判断した場合には、試合を停止するよう審判に勧告するものとする。
- (c) 再開の目処として、雷が完全に鳴り止んでから30分間状況を確認する。30分間経過後も雷が鳴り止まない場合には大会本部（会場責任者）にて「更に中断を続行するか?」、「大会を中止するか?」について判断を行う。
- (d) 中断の時間は最長60分間を限度とする。60分経過後に試合再開が不可能な場合は試合中止とし再試合を行う。ただし、試合の3/4が経過している場合（※1）、試合成立とし、再試合は行わない。再試合の実施は、次の基準に従う。
- (i) 中止試合の前半が終了していない：
中止試合の状況(時間・得点)は引き継がず、前半開始からの再試合とする。
- (ii) 中止試合の前半は終了し、3/4が終了していない：
中止試合の状況(時間・得点)を引継ぎ、中止時点からの再試合とする。
- (iii) 中止試合の3/4が終了しており試合は成立しているが、同点の場合：
次試合に進出するチームを決定する、または順位を決定する必要がある場合、大会本部において抽選で勝敗を決定する。
- ※1 15分ハーフの試合の場合、後半7分30秒を経過している場合、試合成立とする。
- (e) (d) の状況において、どうしても当日中に勝敗を決定しなければならず、再試合が不可の場合、中断した時点での状況および得点にて勝敗を決定する。
- (i) 中止試合の3/4が終了していない：
試合は不成立とし、大会本部において抽選で勝敗を決定する。
- (ii) 中止試合の3/4が終了している、かつ同点である：
試合は成立とし、大会本部において抽選で勝敗を決定する。
- ⑩ その他何らかの要因によって、試合開始及び試合続行が困難な場合の取り決めは、下記の通りとする。
- (1) ⑨の「落雷に関して」に準ずる。
- (2) 但し、「生命に危険性がない」と判断される場合においては、大会本部（会場責任者）の判断にて柔軟な対応を行う。対応に関して、参加チームからの異議は受け付けない。